

野村証券
フィデューシャリー・マネジメント部
木須 貴司

確定拠出年金専用ファンドの動向(2019年6月)

2019年度第1四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は5兆5,486億円となり、資金流入の影響で、残高は増加しました。収益率をみると、国内株式はマイナスとなったものの、海外株式、国内債券、海外債券、マルチアセットはプラスの収益率となりました。資金流出入をみると、確定拠出年金専用ファンド全体に当四半期で1,272億円が流入しています。分類別では、マルチアセット型への資金流入が最も多く、528億円が流入しました。

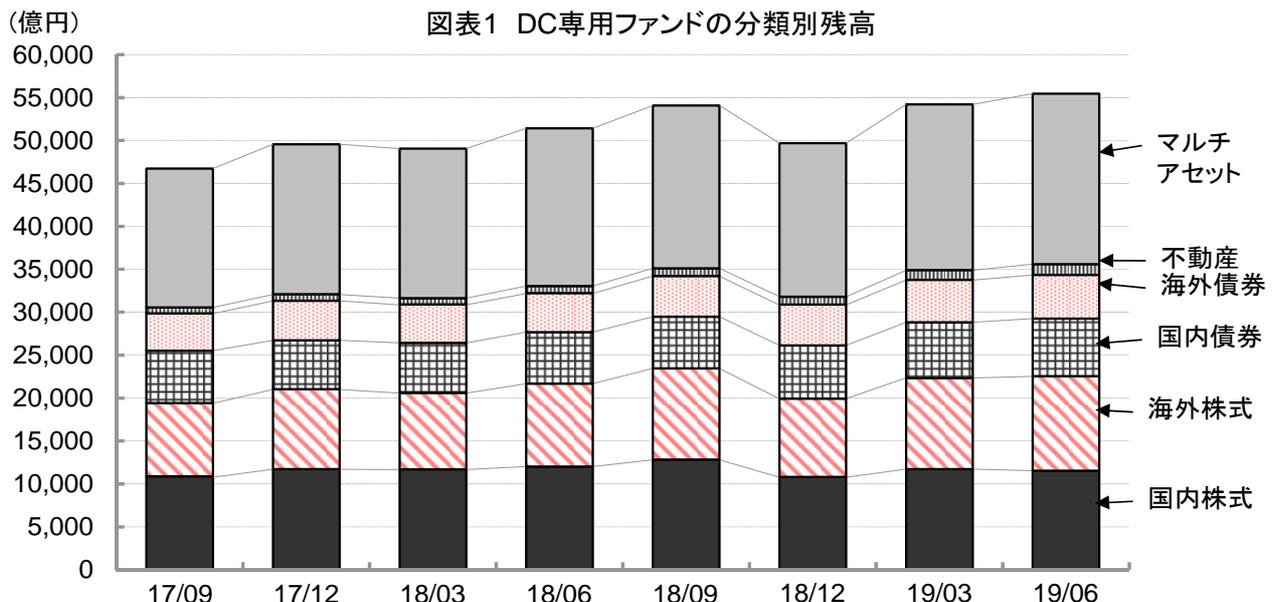
確定拠出年金専用ファンドの残高

2019年度第1四半期(4月～6月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信の残高は5兆5,486億円と、資金流入の影響を受け、前四半期から3%程度増加しました(図表1)。

国内株式以外の資産は、残高が増加し、特に残高の上昇幅が大きかったのは、不動産(12%

増加)でした。また、マルチアセットも資金流入により3%増加し、残高は1兆9,837億円となりました。一方、国内株式については、5月の株価下落の影響を受け、2%残高は減少しました。

分類別残高構成をみてみると、引き続きマルチアセット型の割合が最も高く、全体の35.8%を占めています。マルチアセット型は、主にバラ



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

ス型が中心となっています。今四半期は、他の資産よりも残高の伸び率が大きく、マルチアセット型の比率は、前四半期から上昇しました。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ40.6%、21.3%となり、前四半期と比べて、前者は0.6%低下、後者は0.2%上昇しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、32.9%と、前四半期に比べ0.6%減少しています。国内資産の比率は2四半期連続の減少です。一方、海外資産を中心に運用する

ファンドは、前四半期から0.3%増加し、29.0%となっています。国内株式が下落した一方で、海外株式は上昇したため、このような結果となりました。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は76.3%となり、前四半期から0.2%増加しました。1年前の2018年6月末と比較すると、パッシブ比率は1.7%上昇しています。

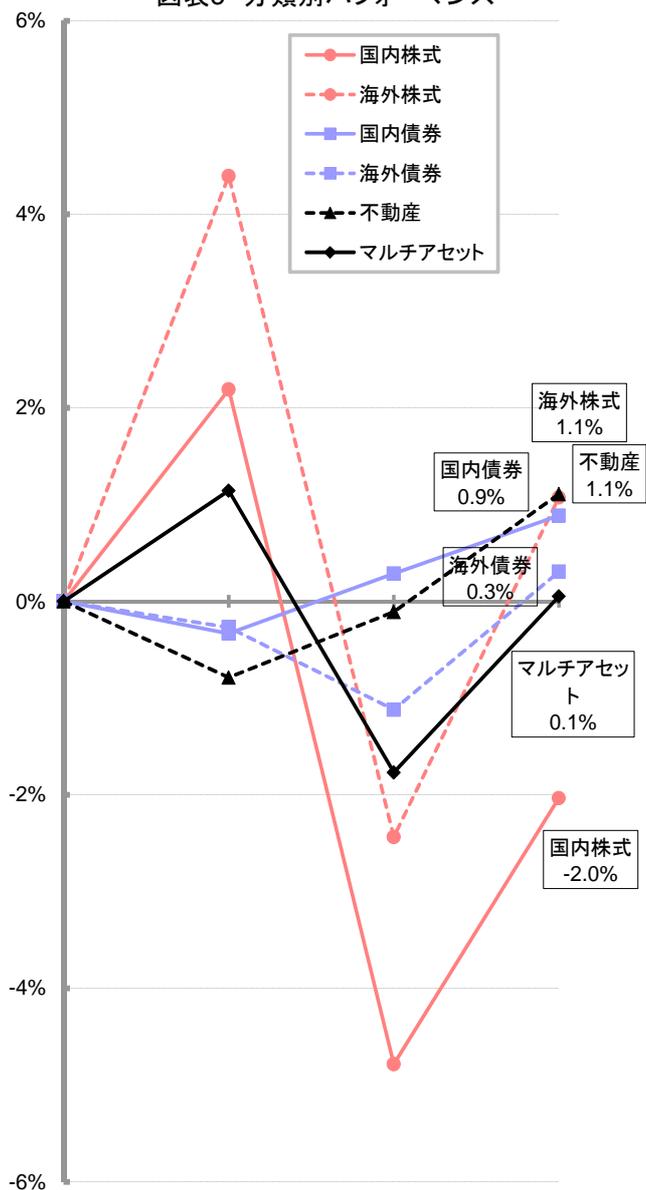
図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	17/09	17/12	18/03	18/06	18/09	18/12	19/03	19/06
国内株式	10,861	11,715	11,681	12,030	12,826	10,797	11,731	11,544
アクティブ運用	4,104	4,490	4,484	4,590	4,870	3,973	4,321	4,259
パッシブ運用	6,757	7,226	7,197	7,440	7,955	6,824	7,409	7,286
海外株式	8,553	9,304	8,921	9,646	10,623	9,145	10,610	10,989
アクティブ運用	1,897	2,113	2,018	2,175	2,295	1,941	2,268	2,331
パッシブ運用	6,656	7,191	6,903	7,471	8,328	7,203	8,342	8,658
国内債券	6,113	5,719	5,821	5,988	6,031	6,200	6,479	6,727
アクティブ運用	864	867	878	896	895	913	950	981
パッシブ運用	5,249	4,852	4,943	5,092	5,136	5,287	5,529	5,746
海外債券	4,332	4,611	4,487	4,566	4,741	4,734	4,948	5,082
アクティブ運用	538	547	523	525	538	532	553	561
パッシブ運用	3,794	4,064	3,965	4,041	4,203	4,201	4,395	4,521
不動産	698	735	737	818	884	931	1,131	1,265
マルチアセット	16,177	17,456	17,424	18,369	18,968	17,862	19,301	19,837
バランス型	14,134	15,033	14,928	15,642	16,327	15,234	16,444	16,839
ターゲットイヤー型	264	463	465	486	340	354	369	397
アセットアロケーション型	1,780	1,959	2,031	2,240	2,301	2,274	2,488	2,601
残高合計	46,775	49,583	49,110	51,456	54,113	49,709	54,241	55,486
残高割合								
国内株式	23.2%	23.6%	23.8%	23.4%	23.7%	21.7%	21.6%	20.8%
海外株式	18.3%	18.8%	18.2%	18.7%	19.6%	18.4%	19.6%	19.8%
国内債券	13.1%	11.5%	11.9%	11.6%	11.1%	12.5%	11.9%	12.1%
海外債券	9.3%	9.3%	9.1%	8.9%	8.8%	9.5%	9.1%	9.2%
不動産	1.5%	1.5%	1.5%	1.6%	1.6%	1.9%	2.1%	2.3%
マルチアセット	34.6%	35.2%	35.5%	35.7%	35.1%	35.9%	35.6%	35.8%

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

図表3 分類別パフォーマンス



出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

分類別パフォーマンスの推移

図表3は2019年度第1四半期におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。この四半期は、4月・6月に株価が上昇したものの、5月は株価が下落しました。その結果、国内株式は-2.0%とマイナスの収益率となりました。海外株式も5月に下落したものの、4月・6月の上昇率が上回り、1.1%のプラスの収益率となりました。

また、今四半期は、国内株式では、アクティブ運用のパフォーマンスがパッシブ運用のパフォーマンスを0.52%ほど上回りました。一方、海外株式ではパッシブファンドがアクティブファンドを0.46%上回りました。

マルチアセット型については、運用商品によってばらつきがあったものの、平均すると0.1%の収益率でほぼ横ばいでした。国内不動産(REIT)は、株価上昇と金利低下の影響を受け、1.1%の収益率となりました。

国内債券、海外債券も金利低下の影響を受けて、収益率はそれぞれ0.9%、0.3%とプラスになりました。海外債券については、為替ヘッジ有では2%超の収益率となったものの、為替が円高となった影響で、収益率は抑制されました。

分類別資金純流入額の推移

図表4は、2018年度第1四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額－解約額)の推移を表したものです。

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	18/04~ 18/06	18/07~ 18/09	18/10~ 18/12	19/01~ 19/03	19/04~ 19/06
国内株式	291	100	389	97	51
海外株式	300	277	279	208	263
国内債券	158	104	92	198	190
海外債券	92	79	70	109	119
不動産	32	51	60	98	121
マルチアセット	751	453	454	471	528
資金純流入合計	1,624	1,064	1,344	1,182	1,272

出所)NRI Fundmarkより野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター作成

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

当四半期の純流入額は前年同期(前年度の第1四半期)に比べると353億円減少し、1,272億円となりました。前年度に大きく資金流入があった反動と見られます。ただし、前四半期の2018年第4四半期と比較すると資金純流入は増加しています。

分類別に資金流入額をみると、国内資産ではなく、海外資産がより選好されている点は過去と比べて特徴的です。2018年度、また今四半期では、国内株式の収益率が海外株式の収益率に対して劣後しており、その影響があると考えられます。

— 次号のお知らせ —

次号は

8月5日(月)

発行予定です。

野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

弊誌の記事はバックナンバーも含めて野村年金マネジメント研究会のホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

編集:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所

発行:野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(野村年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2
アーバンネット大手町ビル

TEL: 03 (6703) 3991 FAX: 03 (6703) 3981

Email: nenkin@jp.nomura.com

このレポートは、年金基金運営および企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営および企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券および野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布しております。提供されたお客様限りでご使用ください。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。